

# 令和3年10月定例会会議録

(令和3年10月22日)

八代市教育委員会

## 八代市教育委員会 10月定例会会議録

- 【開催日】 令和3年10月20日（木）
- 【場所】 八代市千丁支所2階 庁議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長  
松永 松喜 教育委員  
水田 千春 教育委員  
奥村 留美子 教育委員
- 【出席職員】 中 勇 二 教育部長  
橋口 幸雄 教育部次長  
福本 桂三 教育部次長  
松川 由美 教育部理事兼教育政策課長  
高嶋 宏幸 学校教育課長  
竹下 圭一郎 教育施設課長  
田中 智樹 教育部理事兼生涯学習課長  
入佐 正夫 教育サポートセンター所長  
松村 哲治 博物館未来の森ミュージアム副館長
- 【事務局】 草野 弥生 教育政策課教育政策係長  
西村 妙子 教育政策課参事
- 【審議事項】 <議案案件>  
①八市教委議第20号 八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について  
<協議案件>  
①協議第5号 令和3年度第2回八代市総合教育会議の協議案件の教育委員会提案について

1. 開会 (午後1時56分 開会)
2. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告
3. 議題  
〈八市教委議第20号〉八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について  
高嶋学校教育課長 現在委嘱している八代市いじめ防止等対策委員会委員の任

期満了に伴い、新たに委員を委嘱する。任期は、令和3年11月21日から令和5年11月20日までとする。

質問等なし

【議案第20号 承認】

〈協議第5号〉 令和3年度第2回八代市総合教育会議の協議案件の教育委員会提案について

松川教育部理事兼  
教育政策課長 11月19日に開催予定の総合教育会議の協議案件について、資料により説明  
(1) 不登校児童生徒が安心して学べる環境整備と体制づくり  
(2) 学校体育館等へのエアコン設置など「地域の避難所」としての機能強化  
について、協議・意見交換をしてもらう。

水田教育委員 (1)のテーマについては、いじめ防止につながると思うが、学校の体育の授業で、キャッチボールをする際に、ペアになれず一人で残っている生徒がいたが、先生は別の競技に行っており目が届かず、他の先生が声をかけて3人組になることができたという話を聞いた。このような事例は、本人は心が傷ついて、いじめられているという感覚になるかもしれないし、いじめにつながるかもしれない。子供たち同士でどうにかするには難しい時代であるため、学校側が細心の注意を払い、ペアを作るときは、人数を把握し、ペアになれない子がいれば3人組になる、などの手立てを言ってあげないといけないのではないかと思った。対話の授業でも、子供たち同士で話し合いをさせるときに、大人しい子は、苦痛であるという話も聞いている。先生方は忙しいと思うがぜひ配慮をお願いしたい。

高嶋学校教育課長 そういところで配慮できる教師でなくてはならないと思うので指導していきたい。話し合いの苦手な子供も、タブレットを活用したり、いろんな工夫をしたりして、自分の意見を述べやすい環境を作っていく必要がある。

富田教育委員 コロナ感染症の影響による学校の午前中授業や学級閉鎖などを含めて、いじめ・不登校の問題が減少していないと新聞にもあった。まん延防止策が解除された段階で、八代市の子供たちの現状はどうだったか。

高嶋学校教育課長 残念ながら、不登校の状況は増えている。令和2年度は長期休みがあったので比較できないが、元年度と比較すると、増えている状況である。教育事務所と両委員会一緒になって、学校としてどんな取組を行うか、実践事項について話し合いをしているところである。

奥村教育委員 学校からの提案ということで意義深い。不登校問題が最優先で、裏側にある学力問題と併せて、学校は、子供たち一人一人に自尊感情・自己有用感を育みたい、学校はいろいろあるが、学校に行けば友達がいる、先生がいる、そういう感情が豊かにないと、ちょっと行きにくいという引き金が入ったばかりに、行かなくていいとならないように、学校の先生たちが一番その辺を気遣っておられると思う。その観点から、市長との話し合いの議題にあるということで、何について話し、何を目標にするのか。協議を色々する中でいわゆる意見交換、情報交換だけだったら、時間たっぷりに自分の思いをそれぞれ出すだけでよいが、市長が学校現場から何かないかと関心を持っておられるこの貴重な機会に不登校のことが提案されて、総合教育会議の話し合いが、少しでも具体的で学校に戻るものになるためには、意見交換と同時に、せめてこれだけはきちんと具体的に見えるものにしないとという話し合いの筋立てというものを持っていることが必要。それでない、不登校問題は大変だ、大変だ、で終わってしまう。新聞報道等で毎日大きく言われている不登校19万人という数の大きさは、かつての不登校とは違う、子供たちが学校を渴望しない状況が生まれているときに、学校そのものの在り方も本当に問われていると切に感じる。この限られた時間に大きなテーマの話し合いの方向性を持って臨まないと、令和3年の10月にはそういうことを話し合ったということだけになる。何かこれだけとは、そのとき市長の心に何か刺さって、早急にしないといけないなどとなれば。例えば、不登校の解消の小さな1つで、特別支援教育支援員の方がいる。特別支援教育への配慮に対する手立てにはなるが、その人がいるのといないのでは、子供たちへの目配りの頻度が違うので貴重な存在と思う。しかし、会計年度任用職員で一律に勤務時間が統一されたと聞く。人数は増えたが、一人の支援員が関わる子供たちや関わり具合を考えたら従来どおりの時間があってほしい。学校現場から課題を吸い上げていただいたのであれば、各学校、八代の校長会として、せめてこういことがされたらとても助かるというような、課題に対して今、望むものを持っておられると思うので、課題として出すだけでなく

最小限の望み、今最低これだけはこの願望を市長の耳に通じないといけないのではないかと。それを踏まえて、私たちも話し合いに臨まなければいけない。また、昨今の不登校問題の人数が最高になったという新聞の必ずそこに、教育委員会は、文科省は、が主語になり「各学校や学校現場において、カウンセラー、SSW や専門家の配置活用とともに」と書いてある。学校教職員は制度で配置された人数だから行政的にはそうかもしれない。プラスアルファの人数に対する国や県の施策としてSSW、カウンセラーという文言になると思うが、子供が学校に行けなくなったときに最初に胸を痛めているのは、学校の先生たちと思うので、学校が対応しやすい、きめ細かく対応できる学校の体制作りに併せて、というのを加えてもらいたい。学校の担任の先生だけでは時間がなかったり、子供たちも合う合わないがあったりするが、合わないから担任がいなくてもいいというわけではなく、子供の状況をカウンセラーなどから聞きながら学校がその子の不具合を知っていて、誰とどう関わって今相談が進んでいるか、そこを大事にしないといけない。そのためにも不登校気味な子も不具合を言う子も学校の子、我が教室の子なんだと心の余裕を持って思えるような、働き方改革は、時間短縮だけでは思えない。学校の教師が子供のことに100%まい進できる体制、それができることが、教師にとって働き方改革だと思う。学校が、教室が、担任が、子供たちにしっかり関わることができるように、それがうまくいかないところは、学校の協働体制、専門家との連携体制というところで、少しでも子供が学校に行くのがどうもというところをサポートできるというと思う時に、何をどう話し合ったらいいのか。学校現場が感じているこの課題に対して喫緊の対策としてどんなものを持っているか、そこまで把握して進むべきであると感じた。

(2)については、災害があったら体育館が避難施設になるから、協議するまでもなく、すぐしないといけないことと感じた。協議しないとお金のやりとりが大変などあるのか。エアコン設置について市長部局とのやりとりがうまくいっていないのか。現状はどうなのか。

中教育部長

(1)の不登校対策については、校長会の先生たちが一生懸命話をしてもらって、ここにはテーマしか載っていないが、対策のようなものを具体的に3点出してある。実際、総合教育会議の中でどういう議論をしてもらおうか、学校の先生の思いも含めて、何をどうして話をしていけば、有意義な協議となるのかについて作業中で、今回はテーマだけを示した。テーマは2つ

で、時間に余裕はある。市長への説明も今からなので、詰めていきたいと思っている。

(2)の学校体育館のエアコン設置は、学校現場の要望というよりも、危機管理上の災害の避難所としての機能を強化したいという市長の思いからの施策である。小中学校40校くらいあるが、やみくもに全部に設置するのかという問題である。普通教室は、児童生徒が毎日生活をする場なので、一気に設置してもらったという経緯があるが、実際、今の八代市の財政状況では、1つに1億円を超えることが見込まれるので、どういう計画で設置していくのか、全部設置するのか、拠点を見据えて計画的に設置していくのか、防災計画上との関わりをしっかりと検討していかないといけない。学校に設置するエアコンなので、教育費として計上しないといけないが、これによりほかの教育費が圧迫されてもいろいろな計画があるので困る。市長の政策にかける思いを教育委員と共有してもらって、実際進めるときにうまくいくようにテーマとしている。予算さえあればやりたいことはたくさんあるが、一つの大きな政策として取り組むということで、通常これまでやってきたこととの整合性、共通認識を持って取り組むということで、議題として選定し、提案している。

富田教育委員

不登校、いじめの問題について、校長先生が検討し、出されてまとめている。解決策がなくて、学校も慣れてしまっている感じがする。もう一度、校長先生たちに、こんなことをやったけど解決しない、難しいというのを挙げてもらって、話し合いを具体的に進めていったほうが効果的だと思う。学校の実践している事柄の中でよかったけど、学校では難しいから、生涯学習課に任せようか、社会教育関係にやってもらおうかなど具体的に分けていったほうがいい。話し合いが浅く終わってしまう。

奥村教育委員

協働事業で学校の教育活動に対する具体的な支援もだが、学校に来れないで困っているとか、子供が学校に行かなければ、同時にその保護者は学校との縁が切れるケースがある。子供は学校に行けないが、悩んでいる保護者が学校に行って、地域の年配の方からの声を聞けるなど、前からの協働事業と変わらないというのではいけないので、新たな視点で、こういうことにも活用する。学校によってどういう視点で協働事業を活用していくかは違うと思う。全て子供のためにと各学校の実情に合った協働事業、限られた人材を活かしていく。聴き取り、アドバ

イスなど、そういう時に来ている。不登校の子供、不登校の子供を持つ保護者のための協働事業の活用、コミュニティスクールはあっているのか。

田中教育部理事兼  
生涯学習課長 学校ごとの課題というものがあって、協働活動の中で、別室登校に一部の学校で取り組んでいる。それぞれの地域にコーディネーターを配置し、学校が実際に悩んでいる、困っていることは、学校と毎月定期的に地域でもできることについて話し合いをしてくださいとお願いをしている。学校によつての協働活動への理解にも温度差があるのも事実である。今後も続けていきたい。

中教育部長 協働活動で、学校の必要性に応じて地域に動いてもらう中で、地域の人材確保が大きな課題となっている。学校の望む事業を人材がいなくて、できないという地域もある。日頃からの人材確保に努めていかななくてはいけない。

奥村教育委員 はなから、学校が求める人材はいないかもしれない。仕事をしながらスキル、精神を身につけるので、人材確保と同時に人材の育成も気長に考える必要がある。それはどこかというところとそういう施策を打ってる委員会しかない。各学校は自分のことで精いっぱい、地域の人も何かしないといけないが何か役に立つのだろうかというところがあるので、アドバイスをしてもらいとよい。氷川町がいい例で、十数年の中で地域人材が育っていて、誰が校長になっても、地域の人が手助けをしてくれる。八代市もスタートの時だと思ふ。指導をよろしく願ひします。

4. 連絡事項
- |            |  |
|------------|--|
| 教育政策課      | 氷川中学校組合について、寄附について、教育振興基本計画策定委員会について   |
| 学校教育課      | 中学校卒業式について、学校訪問について                    |
| 生涯学習課      | 地域人づくり講座について、社会教育センター跡地への災害公営住宅の設置について |
| 教育サポートセンター | 科学発明工夫展について、年頭研修会について                  |
| 博物館        | 秋季特別展覧会について                            |
| 事務局        | 11月定例会日程確認(11/18 14:00~)               |

5. 会議録署名委員の指名 松永委員・奥村委員

6. 閉会

(午後2時59分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

---

---

記録者

---